

陳方を開市ヤシダ記念美術館長のオウルタ
ハイル氏から、さきにアメリカ美術行商
を介して買つた立脚劇原稿山田都氏
あてに依頼して来たところから始まり、
四十点のせん返を一應終つた、豫定され
ている主な作品は特に介説会（古代
織布）が出版に就いてゐることは洋
日される

パラナ・チームにう勝の栄冠

第四回、バザリ・孟は輕便に競技大會は去ら廿八、九の兩日、初日はフロレスタで第二日はエテ競技場、盛大に開催されたが、出席チームはプロバウリス、ノロエニア・ヘッドエス、及びバラの五チーム以上十名、種々の旗手警備と競技が行われ、幾多の新記録を樹立したことは、大會の特筆せねばならない大収穫を得たが、優勝はバラ・ナーム、総得点一七八・五點で第一位となりバザリヤも丕莫毎日々新進計數上の優勝旗を獲得した。

▲走馬跳快脚女子
一谷口(一)二米二五 二小

▲棒高跳快脚少年
中家・ハラ 三果一〇 大會

▲投球投しよう少年
六モチ(巴三)〇果果
▲市山跳快し
中家・ハラ 四米
野郷・バラ 四五米
井(一)五米三四 四四
(少)五米三七 五十五
五果三 六 滿岡
一四

日本プロ選手歓迎
柔道選手蒞大倉

取州奉國衛、シヤバウの新附社主權の本村杉段以下日本ノ柔道家庭型の金竹柔道ヲ手摺大會は去る七月廿八、九の兩日バクエン、横長場にて行ひ罷れたが、さしもに廣い演武場、兩日とも立錫の余地がきつて観衆、滿れに大盛況裡に閉了した。

巴ニ油ア、ブルデンチチヤ
 橋詰(イタベキ)寺崎(ハスガ)ジヤラダラ

少年組優勝戦はアサイ(北)

少年組個人優勝

位雅聖川(寺崎道橋)三位
エヂソン(小野追橋)

[illegible]

寛政は悪體夏勝の小野道場選手と使節一行

六モチヲ跳決し○果ス八四
 六モチヲ跳決し○少ナ
 ○家バツ○果ス七八二
 新郷バツ○五果ス二五
 井ノ○五果ス四四中重
 サツ五果ス三七五大谷○
 五果ス三 六薩岡○五果
 五果ス三

○果ス投決し○少ナ
 一薩ノ四果ス五大谷新
 二澤澤ノ一四果ス
 三中尾○三九果ス二

三 四松原バツ三八八
 五 五尾○三八七
 八 風岡○三八六一
 三 三段跳決少ナ
 一 中家バツ二二三
 會動ノ録 二井ノ○
 三 三 三 三 三 三 三
 四 三 三 三 三 三 三
 一 五 中重サ十一
 七 六 村サ○十果ス
 四 六 ○○果ス
 一 バツナ五六秒七 二

戸籍欺偽漢現る

在まの花井倫が通ひヨリス
 ヲ管内に於て同様に立
 現れ、先づ同族を召集
 めて長崎一帯の村々に
 行きて、
 となつてゐるは約略生
 れ二世の出で同くしいが
 此を必ずしも、皇位とし
 てゐる必要は毫もない
 万二世と子女の御作
 し本國へ歸還するを願
 ふに、
 別御草紙に、重々囑
 け、石菰山に於て金
 鐘を撞かざる往來の甘言
 に迷はれぬよう、奥地
 には尤も警戒の要がある

若の花迫善相撲

このためしたラジロも、日
本にいたるラジロも、
蘭語者たちのため協力お
すはります ニュー・ヨー
ク七月廿五日は發賣ツル
ル氏から本邦宛の請狀

ヲナ、パウリスタ、ノロエ
ステ等各方面よりの金指者

靴はシムラツテ履いたが、又
靴は斷斷とやられたのか。本
人の間にやられたのか。本
人は少しも嫌づかなかつた
と云う。實に巧妙な手口で
ある。銀行の窓口には必ず
巾着切りが眼光にせられて
いるものと決めて宜しい。銀
行で金を受取る場合はよく
眼光をへせること

聖王の某閣下に入院中の
と親と口取にロンドンリー

素人芝居等が演ぜ
る亦大人氣で夜半に二

素人芝居等が演ぜられ
亦大人氣で夜半に至つ

白米一俵(前田辰男寄贈)

「書一編纂」は何とい
原作が文部大臣賞、
文学賞の譽榮に輝く

會計も本人の同意なく、手押しつけで肩當てあ
ということだ。次に肝心
のは協會結成のため助成
の大作である小説の映
画化問題に對して豫想し
た人氣で雑誌社員員の盛
々とした無敵フランクの
聲を聞いた。

衆目早々公議に乗り込む
筈。同日公演日程は八月
二三日アルシネア市ジョ
コメシアシネマ館 四日
サント・アナスタシア館
六日バラダウス・ウパワリ
ス館、七日オウレンニヨ
ス館となつてゐる。

折角な

ろは所謂密輸といふ
と防遏にあるという
が、これは全く噴飯

何故ならば協會會員中は勿論正式フルートによつて上へいづつきゝたい畫を入し、良心的に興行してゐる者もある代り、殆ん六十六モリの密報めばかゝるを抱えこみ、何とかして興行する方法もなとに偽装してゐる業者も混入してゐる。密報えい畫の所者は密報を監しつゝ合はせつ考へても辻褄の合(以下次號) 天眼生

パウリスタ新聞
の中央バカエン
の勞會と稱し午後
との記事全く事
上げます

昭和廿六年七月廿三

中中

正義生

去る十日附巴祇土ヲ記
 する「バ祇土」北伯朝
 掛金貨育云云」に關する完
 全なる虚構(記事は「現地に
 一大反響を興へ、巧妙なる
 方法ヲ事し無根拠の問答を
 刊」に掲載せる)の附書に投
 書ハ一部は、正は正、邪は
 邪とする本紙記者、邪は
 坐落な彼等の貴賤の仮面が
 割れたことと知らず、平展
 一行の遊學中、例のバ祇
 土ヲ事を得んと振りはまし
 し。嘲諷に呼びかけ、第二段の
 貴賤に狂奔するたといふ
 日知氏や重道氏が、北伯朝
 かけんことを切に希
 まない X
 寄附金から經費を幾
 分あるは、不純である
 向もあるが、運動費
 にもよつて、異動費
 所謂の目つきを達成
 の完壁を期すること
 のやゝあれば、それ
 以上に不純とは云な
 らう X
 去る七月廿七日附中
 トツツ記事によれば
 ラヂオ會の専任株主
 は自學専攻の専士

聲
明
書

スタ新聞七月十二日（木曜日）第六七七號發
バカエンブー女子青年會北伯義えん金にて
稱し午後十一時迄ドンチャン騒ぎをなした
事全く事實無根なることを神に誓つて聲明
す

六甲七月廿三日

中央バカエンブー女子青年會

NOTÍCIAS DO BRASIL

Diretor Responsável SANEMI HARADA

Diretor Adminis. e Proprietário SEISAKU KUROISHI

Fundado em 1917

Redação, Administração e Oficina: Rua Heliotropos, 127 - Caixa Postal, 3148 - São Paulo

N.º 3153

ANO XXXIV

SÃO PAULO, 1 Quarta-Feira DE AGOSTO DE 1951

Circula às Segundas, Quartas e Sextas

サンパウロ俳句大会

七月八日、於市立青年會館
兼題「冬の雨」一焼諸一中郎香茶選

一、友人の火を手にて燃るる雨
二、雨の手にて燃るる雨
三、雨の手にて燃るる雨
四、雨の手にて燃るる雨
五、雨の手にて燃るる雨
六、雨の手にて燃るる雨
七、雨の手にて燃るる雨
八、雨の手にて燃るる雨
九、雨の手にて燃るる雨
十、雨の手にて燃るる雨

乳母はみどりやうきうき
小春の雨はみどりやうきうき
小春の雨はみどりやうきうき
小春の雨はみどりやうきうき
小春の雨はみどりやうきうき
小春の雨はみどりやうきうき
小春の雨はみどりやうきうき
小春の雨はみどりやうきうき
小春の雨はみどりやうきうき
小春の雨はみどりやうきうき

ドウランド山脈の開發事業

この山脈は、その雄大な姿と、豊かな自然資源から、我が国の開發事業に重要な役割を果たす。ドウランド山脈の開發事業は、その雄大な姿と、豊かな自然資源から、我が国の開發事業に重要な役割を果たす。ドウランド山脈の開發事業は、その雄大な姿と、豊かな自然資源から、我が国の開發事業に重要な役割を果たす。

ドウランド山脈の開發事業

この山脈は、その雄大な姿と、豊かな自然資源から、我が国の開發事業に重要な役割を果たす。ドウランド山脈の開發事業は、その雄大な姿と、豊かな自然資源から、我が国の開發事業に重要な役割を果たす。ドウランド山脈の開發事業は、その雄大な姿と、豊かな自然資源から、我が国の開發事業に重要な役割を果たす。

大募集

家庭に於てカルサを縫はる方
(男女を問はず)
大量あり
照會は
Snr. Sarkis
RUA CLAUDINO PINTO, 156

吉田宇三郎氏

SHIGEMITSU MURAMATSU
Faz. Sta. Julia do Pinhal
So. Antonio da Platina
Estado do Paraná

Guerra a SAUVA!...

Com **"EFEBECE"**
Formicida e Extintor AUTOMÁTICO

火事と中毒の恐れ無い強力殺蟻器

破魔商會
Rua Cantareira, 656
Caixa Postal, 1817
Tel. 31.9654
São Paulo

各種薬

強壯剤、整腸剤、風邪薬、その他各種薬

信用最大、良効あり

製薬会社

AVEFORTIM

養鶏業の合理化は？
アベホルチンの連続給與

産卵数	第一號	第二號
第一號	3200卵	2579
第二號	2579	621卵
差		621卵
一打平均	Cr.\$10.00	
一羽當り増収	57.50	
初卵より		
29ヶ月間		
アベホルチン		
使用高	405瓦	
全金高	Cr.\$ 6.20	
差引		
アベホルチン連続給與により増収とみなされるべき金高	一羽當り	
	Cr.\$ 41.30	

東京

料亭

女給入用 高給支持

電話 36-6198

第一回相撲大会

全ノロエステ聯合青年團

主催 汎グワラサイ青年團
後援 汎グワラサイ日本人會

昭和廿六年七月十日